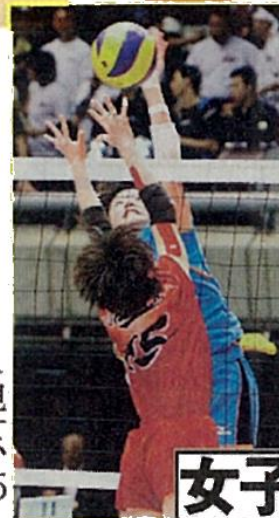


16強

⑤<都市大塩尻・三重>
粘りのバレーで16強入りを決めた都市大塩尻の選手たち
⑥第2セット、都市大塩尻・小山が強打を決める



粘ってフルセット逆転 都市大塩尻

▽女子2回戦

都市大塩尻	2	25	25	18
三重	1	21	22	25

昨夏のリベンジ

絶対に諦めない。都市大塩尻が驚異的な粘り腰でフルセット、1時間20分の激闘を制した。

昨夏の中部日本選手権で敗れた三重に第1セットを奪われ、第2セットも1-7と離された。ブロックアウトを狙う巧打、サーブ、堅守に翻ろうされていたが、じわじわと反撃。13-13からウイング中島優花(3年)

女子

の3連続得点で突き放すと、ミドル堀内玲楠(3年)のブロック、強打もさえを見せ、25-22で奪回。第3セットも1-6と走られたが、ミスの出始めた相手に13-15からの4連続得点で抜き去り、25-21で振り切った。

1回戦に続いて序盤の劣勢をひっくり返し、堀内は「県大会の決勝もフルセットだった。粘り強さがこのチームについてきた」。3回戦は個々の力が高い文京学院大女(東京)が相手。

エースらしい強打で士気を鼓舞し続けた中島は「技術のあるチームに立ち向かっていく」と決意を込めた。

■この記事・写真等はスポーツニッポン新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。
学校法人 五島育英会